



JAPAN REGION



III

Volume 33
July 2015

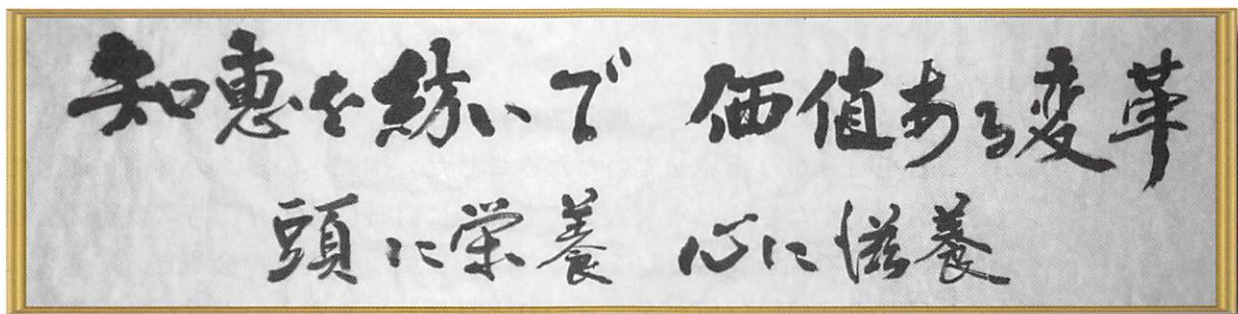
目 次

Table of Contents

今期のテーマ	1	2014~2015 Theme
日本リージョン会長メッセージ	2	Japan Region President's Message 2014 - 2015
役員からのメッセージ	3~4	Message from Officers
委員会からのメッセージ	5	Message from Committee Chairs
リージョン年次大会特集 CMT、TPP報告	6	Japan Region Annual Conference Special Edition, CMT, TPP Report
役員会年次報告	7	Annual Report
会則決議審議結果	8	Report on the Bylaws
講演	9	Lecture
教育ミニ講座報告	10~11	Mini Lecture Report
教育セッション報告	11~13	Training Session Report
スピーチコンテスト (日本語)	14	Speech Contest (Japanese)
スピーチコンテスト (英語)	15	Speech Contest (English)
次期役員指名委員会/次回年次大会案内	16	Next Term Officers/Next Conference
リージョン大会アルバム	17~20	Conference Photo Album
ワンポイント (リージョン事務局設立の経緯)	21	One Point
カウンスル・クラブ情報	22~25	News from Council & Club
学生スピーチコンテスト	26	Speech Contest (Student)
記念例会	27	Club Anniversary Meetings
ITC メンタリング委員会メッセージ	28	Message from ITC Committee Chair
追悼の辞	29	Memorial Address
編集後記		Message from Editor
ITC 宣誓、リージョン声明文		ITC Pledge & Mission Statement

ITC 日本リージョン第33期テーマ

Japan Region Theme 2014–2015



ITC Theme 2013–2015

“The Right Choice”

正しい選択

日本リージョン会長メッセージ

感謝を込めて

第33期日本リージョン会長

中島 由美子



この一年、いろいろな場面で皆様が知恵を紡いで、対処して下さったことをしっかりと見せていただきました。国際への多くの疑問に関して、検討して下さり、年次大会でも熱心に討議に加わり、時には質問、掛け声、拍手で意思表示をして下さいました。今 ITC の会員として考えなければならないのは何かをしっかりと見極めてお考えいただけていることに心から感謝申し上げます。

今回の年次大会で準備段階での会員の皆様の熱心で真摯な取り組みをつぶさに見せていただきました。どれほど細やかに参加される会員の身になって過不足なく準備を整えて下さったことか。会期の当日まで委員会からのメールが入りました。それほど心を砕いて下さったからこそ素晴らしい年次大会でした。

今期の年次大会ではいろんな場面で従来と違うことを試みました。

まずは会員手作りの前夜祭、なんと多くの方々の素晴らしい能力を見せていただけたことでしょう。時間を工面して熱心に練習されたことが手に取るようにわかる内容でした。入場式における会長行進は所要時間を気にしていましたが、スムーズに生演奏付きで、各カウンスルも趣向を凝らしての応援、ページ委員会の綿密な計画が生きていました。日本、カナダ、アメリカの国旗を舞台の上に掲げ、会場でもプログラム・教育委員会手作りの3国の小旗を振って国際役員の皆様をお出迎え、晩餐会での永年継続者表彰でも PREM 委員会とページ委員会との綿密な打ち合わせと周到な用意、3日目のスピーチコンテスト日本語の部では今までと異なって午前中の開催で儀典委員会とスピーチコンテスト委員会との何度もの打合せでスムーズな進行でした。

審議後の Q&A での予期せぬ突然の国際からの勧告には正直驚きを禁じえませんでした。しかし年次大会閉会后に200名以上の会員の皆様が残って下さり、意見交換ができ、今までわからなかったことへのほんの少しですが、国際の現状、そのために今こそ考えなければならない時であることの認識は得られたと思います。

期首に掲げた日本リージョン独自の教育資料作成を含めた短期目標も確実に実施できましたが、全体的に見て一年でどれほどのことができたかはわかりません。会員の皆様にとって必要なもの、ITC の会員でよかった！と実感できる一年にしたいと取り組んできたことが、皆様にとって「知恵を紡いで価値ある変革」として感じていただけたでしょうか。

私にとっては訪問させていただいた例会、会合ではいつでも笑顔一杯の会員の皆様に出会い、身を持って日本リージョンの素晴らしさを感じる事が出来ました。

最後になりましたが、全力で年次大会の準備に取り組んで下さった準備委員会所属の16委員会全ての委員長、委員の皆様、一年を通じて、しっかり日本リージョンとしての歩みを進めるため尽力して下さった役員会、常任委員会、特別委員会の委員長、委員の皆様、事務局の皆様から心から御礼申し上げます。「頭に栄養、心に滋養」一杯の一年間でした。心から感謝を込めてありがとうございました。

役員からのメッセージ

サ ポートビューロー報告と その課題

第一副会長、プログラム・教育委員長
海老原 あかね

今期のリージョンサポートビューローは、カウンスル No.1 の教育研修会「議事法を活かして」に中野知子会員（リージョン会則・決議委員長：No.6 奈良クラブ）をリーダーとして派遣しました。この教育研修は「議事法を取りあげてのプログラム・アイデア紹介」との2クラスに分かれていて、該当クラスには約40名が参加しました。所要時間は90分、先ずは議事法とは、そして議事法の原則、議事法の目的、その後 ITC の中で効果的に議事会議を進めるために知っておくこと、また、カウンスル、クラブで実際にどのように行われているかを全員でディスカッションをしながら進めていき、非常に身近に感じる事ができたと共に、納得できる内容でした。



現在、リージョンサポートビューローでは、リーダーを指名することができません。それは交通費の問題など様々あるからですが、このリーダーを選出するのも大変で、なるべく近いカウンスルの方、尚且つ依頼された内容に精通している方、となるとかなり限定されてきます。今回は大成功に終わりましたが、最近、カウンスルでは、自由に依頼したい人をお呼びするという傾向になってきています。しかし、リージョンを通すと僅かでも交通費を補助できるので、利用して頂ければと思うのですが、つまり、一番のネックは「指名できない」です。指名できるようになれば、自ずと派遣される人が、決まってくるかもしれません。皆にリーダーとして派遣されるチャンスが巡ってこないかもしれません。ITC は教育機関であり、会員全員平等でなくてははいけません。どう考えたらよいのでしょうか・・・と思いながら今期を終えようとしています。



ワンポイント No.5

大会規則について <議会法規役員より>

日本リージョン年次大会に提出される大会規則は、議事会議に於いて採択され、大会期間中のみ有効です。大会規則は会則や常規と違い、大会がいかに運営されるかを規定するものです。大会規則は11項目あり、採択されているリージョン会則に抵触してはいけません。

日本リージョン大会規則11. 議事運営の基準

11.1. 会則にも常規にもない議事運営手順については、「ロバート議事法新改訂版最新版」が適用される。

11.2. これらの規則は、派遣員の3分の2の賛成によって修正又は一時停止することができる。

と明記されています。大会規則は全体を一つのものとして考えますが、規則は一つ一つが主要動議となります。例えば、大会期間中であれば、一審議10分という審議時間を、派遣員の3分の2の賛成で大会規則を一時停止し、審議の短縮または延長の動議を提出することができます。

役員からのメッセージ

今 期入会の皆さんへ アンケート

第二副会長、PREM 委員長
大原 慶子

「ドアをノックして入ってみたら・・・」

今期入会者は6月20日現在56名、このうち52名にアンケートをいたしました。
「ITCのドアの中」は宝物が一杯です。たくさん見つけてご活躍ください。
ご協力ありがとうございました。

1. ITC への入会のきっかけ

- 友人や知人の紹介 100%
- リーフレットを見て
- HP、ウェブサイトを見て
- クラブ例会に出席して
- カウンシル会合に出席して
- リージョン大会に出席して
- その他（スピーチコンテスト）

2. 入会後の感想

- 入会して良かったこと、有意義だと思われたこと
皆が親切で、温かく迎えてくれた 学校教育には無いコミュニケーション等を学べる
時間が規則正しく、会の運営を学べる エネルギーを感じ、自分を鼓舞する原動力となった
人前で話す機会が出来た 人脈が広がった スピーチや多くの役割を体験することが出来た
- 一番嬉しかったこと
素晴らしい、年代の違う会員との出会い 優しく声掛けいただき、指導してくれた
詩を朗読した時、若い頃を思い出した 自己紹介を褒められた
- 困ったこと、難しいと思われること
ITC用語、ITCの組織と運営がわからない パソコンが苦手で会の役に立つことが出来ない
人前で話すこと、あがり症で自分の言葉で伝えることが苦手
仕事との両立、委員会、カウンセル会合に出席することが時間的に難しい

3. カウンシル会合に出席したことは？

- ある 40%
- ない 60%

↓

初参加がカウンセル会合であり、組織運営の素晴らしさと会員の志向の高さを感じた
井戸端会議と異なり、時間通りの運営に感動した 自身の時間の使い方を考える機会になった
クラブの個性、地域性の違いが面白い スピーチコンテストの素晴らしさに感動した
事前の準備、それぞれの役割をきっちりこなす中で「楽しんでも？」と声をかけてくれ、
仲間に加えていただいたと実感し、光栄に思った プログラムが良く考えられ、凝っていて楽しい
一つ一つを皆で共に学ぶことが楽しい

4. リージョン年次大会に出席しましたか？

- 出席 10%
- 欠席 90%

↓

スケジュールがぎっしり、内容も充実し有意義できちんと運営され素晴らしかった
国際との問題のやり取りを目の当たりにし少し戸惑ったが、今後の成り行きが気になる

5. リージョンウェブサイトをご覧になったこと

- ある 40%
- ない 60%

↓

*あると答えた方は資料や情報を利用されていますか。
時々利用している 利用していない 活かしていない 時々確認している
わかりやすく、素晴らしいアドバイスをいただいている

以上

委員会からのメッセージ

資格認証委員会

資格認証委員長
土川 邦子

委員会活動方針を「会員に資格認証プログラムへの積極的参加を奨励する」とし、会員が資格認証関連書類をすぐに取り込めるように、下記4種のファイルを日本リージョンウェブサイトへアップロードしました。

- ・コース認証申請書（日英両版）
- ・課題認証申請書
- ・資格認証バッジ注文書
- ・プロジェクトチャート（コースⅠ、Ⅱ、Ⅲ）日英両版

今期の資格認証コース取得者数は、コースⅠが33名、コースⅡが30名、コースⅢが9名、合計72名でした。

多くの会員が資格認証プログラムに参加するためには、本人の意欲・努力はもちろんですが、クラブ・カウンスルの資格認証委員長のきめ細かなサポートと熱意が必要です。

今期、コース取得者数が一番多かったカウンスルはカウンスル No.5 で24名、取得者数が一番多かったクラブは千里クラブで11名でした。カウンスル No.5 資格認証委員長 吉川明子会員と、千里クラブ資格認証委員長 足立和子会員には、リージョン会長より賞状が贈られました。

ライティングコンテスト委員会

ライティングコンテスト委員長
松本 敬

4年目に入ったライティングコンテストは、期首には例年通り「英語の部」のみの予定でした。しかし急遽「日本語の部」も併設することになり、慌てて「規則と任務」を作成致しました。今まで国際ウェブサイトには無かった英語の部「規則と任務」を翻訳して、日本語の部と共にリージョンウェブサイトへ必要資料をアップロード致しました。これで漠然としていたコンテストルールも分かりやすく理解してもらえるようになったと確信しております。

今期「英語の部」応募数8作品、「日本語の部」応募数10作品でした。

各部門の1位は

- | | | | |
|-----------|----------|----------------------|-------|
| * 「英語の部」 | フィクション | カウンスル No.5 豊中クラブ | 田中 絢子 |
| | ノンフィクション | カウンスル No.2 イースト神戸クラブ | 戸塚 幸 |
| | 詩 | 無所属 大分クラブ | 安東 敦子 |
| * 「日本語の部」 | ノンフィクション | カウンスル No.5 紀州クラブ | 佐藤 華子 |
| | 詩 | カウンスル No.5 堺東クラブ | 遠藤美与子 |

おめでとうございます！

来期からスピーチすることばかりでなく、ライティングをすることもプログラムの一環としてクラブで取り入れてみてはいかがでしょうか？ 書くことの楽しさを味わえることでしょう。



1位の皆様は、第33回日本リージョン年次大会で表彰されました。

第33回

日本リージョン年次大会特集

第33回 ITC 日本リージョン年次大会が2015年6月4日(木) 5日(金) 6日(土) 神戸ポートピアホテルにて、大会テーマ「共に輝こう！ Let's shine together!」のもと開催されました。その模様を特集してお届けします。(P.6~P.20)

●大会1日目には
2つの研修会が行われました。

大会の様子が神戸新聞6/6付朝刊で紹介されました。



神戸 意思疎通の技術磨く ITC日本大会が開会

コミュニケーションの向上などを目的に活動する国際組織 ITC (インターナショナル・トレーニング・イン・コミュニケーション) の日本大会が5日、神戸・ポートアイランドの神戸ポートピアホテルで開会した。写真。ITCは米国で1938年に設立、世界16カ国に約2400人の会員があり、日本では77クラブで約1200人が活動している。日本大会は年一回開催される。3日、前後祭のある4日から3日間行われ、会員約660人が参加。日本語と英語のスピーチコンテストのほか、大阪学院大教授による講演などが行われる。5日は、オランダの神戸ポートピアホテルでの開会式に、川島屋市子会長とベテランが力を出し合いながら、コミュニケーションの力を磨きましよう。などあきさした。(小尾絵生)

カウンスル運営研修会 (CMT) 報告

次期会長 高木 清子



カウンスル運営研修会 (CMT) は、107名が出席して開催されました。

第33期役員と委員長がリーダーを、34期役員と委員長がサブリーダーを務めて、10部門 (会長、第一副会長、第二副会長、書記、会計、議会法規役員、編集者、資格認証、会則・決議、スピーチコンテスト) で研修が行われました。10テーブルに分かれての60分間の部門別研修では、意見や質問が続出し、もう少し時間が欲しかったとの声がありました。その後、50分間の全体会議をしました。部門を超えての活発な質疑応答がありました。

毎年行われる研修会ですが、各カウンスルからの役員・委員長の真摯な姿に、自分が受けた役職に対する責任感と熱意を感じ取りました。オブザーバーとして参加された Val Harper ITC 会長、Maria Trujillo-Tough Div. I 副会長、小菅あけみ Div. IV 副会長も同じ感想を抱かれたことでしょう。各カウンスル役員・委員長は、所属クラブの次期役員・委員長に研修内容を説明し、それがクラブ運営に反映されることを願っています。



TPP 報告

大野 三恵子 (京都)



TPP (Training Power Pack) は、公式訪問者 Val Harper ITC 会長により「DON'T ORGANIZE」「一悩まないでー 整理しましょう」のテーマで、52名が出席して行われました。

日本でも「整理術」の本がベストセラーになるほど、整理するということは人生の重要なテーマで時機を得たものでした。78%の人が整理したいと思いい、90%の人が自分は片づけられないと感じ、35%の人がそれを人に見られるのが恥ずかしいと感じている。何かを探し出すために費やす無駄な時間をなくすためには、整理するしかないのです。

本当に必要なものは20%、要らないものが80%ですと、リーダーは3個の箱を用意され、① 保存する (頻繁に使うもの) ② 寄付する (欲しい人にあげる) ③ ゴミ (誰も使わない) に分類する方法を示されました。資料は日本語に訳され、小菅あけみさんの通訳は理解し易く良く準備されていました。



書類に関しては、書類保存、パソコン保存のメリット・デメリットを各テーブルで話し合い、自分に適した方法で整理する。ファイルの保存先を分類して保存する。定期的に要、不要をチェックする事等を示されました。有意義な TPP に参加し、改めて整理の大切さを確認しました。

[人生は、片づけなくて生きていけるほど簡単ではありません] マーサ スチュアート

第33期 ITC 日本リージョン役員会年次報告書

2014年8月1日～2015年7月31日

第33期日本リージョン役員会は、テーマ「知恵を紡いで 価値ある変革」Collect Wisdom & a Valuable Change サブテーマ「頭に栄養 心に滋養」Nutrition in Head, Nourishment in Mindのもと、
 短期目標 ① ビジネス部分の各クラブ共通の認識を確立する。② プログラムの充実と質の向上を目指す。
 長期目標 ① 1クラブ20名以上の構築を目指す。② 社会における ITC の価値と認知度を上げる。
 を目指し、以下の活動を行なった。

1. クラブ数・会員数の状況

日本リージョンは今期8カウンスル、77クラブ、会員1,190名でスタートした。
 6月4日現在、クラブ数77クラブ 会員総数 1,218名。新入会員数は56名である。

2. 研修会報告

- ① カウンスル運営研修会（CMT）は、2015年6月4日神戸ポートピアホテルに於いて、10部門で開催された。
- ② トレーニング パワー パック（TPP）は6月4日、公式訪問者 Val Harper ITC 会長により行われた。
- ③ 年次大会の評価は6月6日年次大会終了後、公式訪問者 Val Harper ITC 会長により、第33期日本リージョン役員、議会議長役員及び大会準備委員長を対象に行われる。
- ④ 評価後、公式訪問者により、日本リージョン新役員を対象にリージョン運営研修会（RMT）が行われる。

3. 主たる活動

- ① 役員会は任命役員の議会議長役員、編集者も出席し、定足数を充たし現在までに14回開催した。
- ② 役員は、8カウンスル第一回会合に公式訪問を行い、リージョンの方針を伝えた。
- ③ リージョン会報は、年3回発行を予定し、全会員に第1号、第2号を配布した。
 第3号は、7月に配布予定である。
- ④ リージョンメールは、2ヶ月に1回配信し6月現在まで5回、また号外を4回配信した。
- ⑤ 会長は、国際役員会にリージョン会長報告書を2回提出し残り1回を提出予定である。
- ⑥ 特別委員会として議事運営検討委員会及び教育・資料研究委員会を設置した。
 ☆議事運営検討委員会では、会員からの様々な質問に対し委員会で検討し回答した。
 ☆教育・資料研究委員会では、日本リージョン独自の教育資料を開発し、会員に配信した。
- ⑦ リージョンPREM委員会は「どこでもドアノック」プロジェクトとして全クラブのお奨めプログラムの一覧表を作成し、クラブ訪問の活性化を図った。
- ⑧ ウェブサイト：リージョンホームページの充実を図り、リージョン及びITCからの最新の情報を掲載、今期初の日本リージョン独自の教育資料を全て掲載した。
- ⑨ 国際とのつながり：隔月に配信されるFtB及びITC大会の情報を翻訳しクラブに配信すると共に、リージョンウェブサイトに掲載した。
- ⑩ リージョンサポートビューローは、カウンスルからの講師派遣要請に応じ、活動のサポートを行った。
- ⑪ 地域への発信：ひがし広島クラブ主催「東広島市内小・中学生スピーチコンテスト」及びカウンスルNo.3主催「高校生スピーチコンテスト」の助成を行った。
- ⑫ 本年次大会は、CMT終了後、5部門の教育ミニ講座を開催し多数の会員の参加を得た。
- ⑬ 事務局出版部は次の出版を実施した。
 ☆マスターマニュアル入門編を日英両語で資料 B2 として出版した。
 ☆教育・資料研究委員会作成の資料として C1 3編を出版した。

第33期日本リージョン年次大会は、2015年6月4日、5日、6日の3日間の日程で大会テーマ「共に輝こう！（Let's shine together）」サブテーマ「笑顔との出会い（Meet with a smile）」のもと、神戸ポートピアホテルにて開催中である。

第33期 ITC 日本リージョン書記 中村由紀子

日本リージョン会則修正案の審議結果報告

会則・決議委員長 中野 知子

第33回日本リージョン年次大会において審議された会則修正案1件の審議結果は下記の通りです。下線付き太字の部分が修正された部分です。

修正案 修正案通り可決

修正箇所：第6条 6. 指名と選挙 6.1.1.

修正方法：削除して挿入

会則 6.1.1. リージョン大会において選出された、各々異なったカウンスルに属する5名の正会員によって構成される。選出された指名委員会はリージョン大会に続く次年度に活動する。もし欠員が生じた場合は次点者を繰り上げる。ただし、該当者がいない場合は指名委員会候補者名簿の中から全所属クラブの郵便投票により補充する。指名委員会候補者は原則としてすべてのカウンスルから最低1名指名されるものとする。



講演

「これからの日本経済」



大阪学院大学経済学部教授・エコノミスト

國定 浩一氏



プログラムリーダー 葛谷 美紀子 (名城)

今回の講演は、大会3日目6月6日(土)午後1時40分から行われました。講師の國定先生は当日午前中11時25分まで読売テレビ「あさパラ!」にレギュラー出演された後、会場であるポートピアホールへ駆けつけてくださいました。

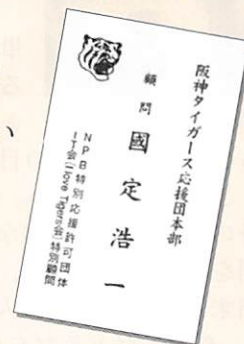


熱狂的な阪神タイガースファンとして知られ「虎エコノミスト」の異名を持つ國定先生は、「日本の未来に悲壮感など持たず、阪神ファンのように前向きな考えを持っていれば、人生は上手くいく」「これからの日本経済は大丈夫だから、ゆったりとしていけば良い」などタイガースファンを引き合いに出しながら、私たちの心配の種を拭ってくださいました。タイガースファンとしての面白オカシイ話だけでなく、経済についても事例をもとに分かり易い内容で、難しく、堅苦しい経済問題が「なるほど!」と思え、ついつい話に聞き入ってしまいました。阪神ファンには、最高の講師であり、阪神ファンでなくても、納得の90分でした。



講演会の最後には、お約束の阪神タイガースのロゴをあしらったスーツやネクタイの「お披露目」があり、お披露目ごとに、大爆笑が起きました。講師の國定先生と会場が一体になった時間でした。

講演後の先生の控室前には、「阪神タイガース応援団本部顧問 NPB 特別応援許可団体 IT 会 (I love Tigers 会) 特別顧問」という長い肩書の名刺を求めて、長蛇の列ができました。國定先生のファン、阪神ファンの多さを実感した光景でした。



教育ミニ講座報告

大会1日目、6月4日 15:00~16:00 5つのミニ講座が開講されました。

1. 「すぐわかる会計」



リーダー：リージョン会計 三木 千春 (姫路)
事務局、経理部長 柴原 妙子 (しらさぎ)

33名の参加を得て開催されました。資料「すぐわかる会計」(9ページ)と大きく書かれたお金の流れの紙をホワイトボードに貼り、それを見ながらリーダーは皆さんに丁寧に説明をされました。質疑応答も真剣に活発に行われ、来期、会計の役をされる方は自信をもって運営されるだろうと感じました。初めて参加した方からは、リージョン事務局・リージョン会計・カウンスル会計とある中、特にリージョン事務局は何をしているのか分からなかったが、国際との関わりを代行してくださっていることがよく理解できたと喜んでいらっしゃいました。他にも新入会員の書類の書き方、送り方等よく分かったとの声が聞かれました。ホワイトボードに掲示されたものが大変分かり易かったので資料の中に組み込んで下さったらよかったのという意見もありました。1時間があっという間に過ぎた有意義な講座でした。

報告者：三井武子 (奈良)

2. 「議事法 バーチャル審議体験」



リーダー：リージョン議会法規役員 坂口 正子 (大阪)
議事運営検討委員会

ITCが採用する議事法の典拠となるロバート議事法が日本の国会でも採用されており、生きた見本として確認出来ることなどから話しを進められ、ひとつひとつについて「何故そうなのか」を丁寧に説明し、投票函のあり方、投票用紙の入れ方、テラー3名の退出方法、派遣員に出来ることなどにも触れ、見過ごしがちな事例の運び方を事例と共に、実際の運用につながるように、用意していただいた資料<議事法の基本>をもとに説明を進められた。また後半では「バーチャル審議体験」として、クラブのビジネスでも起こり得る幾つかの審議の例と、審議を混乱させること無く進める方法をスキットの形で分かり易く紹介された。分割動議はどんな時に出せば有効なのか、ブランクを作って討議するのは何故?等々、「今度クラブでも使ってみよう」と思わせてくれるスキットでした。堅苦しく感じるタイトルにも関わらず多くの参加者を得、熱心に全員が受け止め、書類のなかの議事法を活きた議事法へと導く講座でした。

報告者：中野知子 (奈良)

3. 「プログラム見本市 準備のいらないプログラム」



リーダー：山口久美子 (韭崎・トレーナー)
齊木ゆかり (横浜・トレーナー)

「回転寿司」「インプロ」の目的は、これらを学ぶことで、準備をしなくても簡単な内容と方法で「恥ずかしさ」を克服し、いかに「聞く・話す事」が上手になるかを実感する事だ。「回転寿司」とは、テーマが与えられ、話し手と聞き手の座席が順に動いて行って、あたかもレーンにのってクルクル動いていくお寿司のように見える為に、その名がつけられた。回転寿司の目的は、①スムーズに話が出る様になること②皆で一斉に話をするので賑やかになり、これがとても良い。③話を聞く人(傾聴)は相手の話を共感的に聴くことにより、相手を受け入れ、更に自分の考えや自己理解が進む。「インプロ」は、インプロバイゼーション、即興劇とも言われ非日常的な即興劇を行う事によって、言葉に頼らずに自由に表現したり、発想力や想像力、観察力などを養ったりする事が出来る。構成は、少人数のグループを作り、テーマに沿って、「何が(起)、何して(転)、どうなった(結)」を含んだドラマを作り、それを無言劇や有言劇で発表する。まとめ：その時のお題が一番大切。何回も行う事も大事。

報告者：横井 加織 (淡路)

4. 「プログラム見本市 広がりを見せるプログラム」 — 「上手な聴き方」「主張すること」 Ten Tips を参考に



リーダー：家村 悦子（京都・トレーナー）
讃井 良子（岡崎・トレーナー）

Ten Tips (10の秘訣)「上手な聴き方」「主張すること」はリージョンのウェブサイトに掲載されている資料です。これら二つの内容は、自分も相手も尊重した聴き方・自己主張の仕方、ITCではお馴染みのアサーティブな表現の仕方です。どのように聴き、また自分の言いたいことをどのように伝えればよりよいコミュニケーションを取れるのか、具体的に説明し、最後に3人1グループになって、表現の仕方の実践とその評価をしていただきました。講座の後、カウンスルやクラブで企画したいという声が聞かれたのは、嬉しいことでした。あちこちのクラブでコミュニケーションの基、よく聴き、適切に自己主張することの融合されたプログラムが、この講座に出席くださった会員がリーダーとなって、企画、実践されることを期待しています。

報告者：家村悦子（京都）

5. 「プログラム見本市 あがらないための秘訣」



リーダー：平井 典子（豊中・トレーナー）
小松利香子（しらさぎ・トレーナー）

ITCではPowerTalk「壇上の態度」の中であがらないための学習がありますが、頭で理解しても実際のスピーチでは、頭が真っ白になって立ち往生してしまうことがよくあります。そんな時の“お助け講座”をトレーナー2名で練り上げました。Ten Tips教材とスライド資料を配布し、舞台袖での10の対策、スピーチ開始後の頭真っ白のための7つの解決法を説明後、実践トレーニングを開始。「あがるためのワンワード」を体験後、なぜあがるのかを3人グループで話し合い、結果発表。その後、あがりやすい原因（セロトニン）をコントロールするトレーニングの実習。会場を歩いて、肩の上げ下げ6回、ジャンプを6回、にっこり隣人と握手。ポジティブ一言を付けた「プラスワンワードの自己紹介」を終えたころ、参加者一同の表情が一層輝いてきたと見えたのは欲目でしょうか。「来てよかった」のお声にトレーナー冥利をいただきました。

報告者：平井典子（豊中）

教育セッション報告

大会2日目、6月5日 15:50～17:20 6つの教育セッションが開催されました。

A 「土のぬくもりをあなたに」

講師：藤原 敬介 氏（陶芸作家）

プログラムリーダー 佐藤 睦子（岡山・平安）

30分間の藤原敬介先生の興味深い、お話を拝聴、先生の土に対してのこだわりと土探しのお話、皆感動いたしました。その後実技のデモンストレーションがあり、お皿の土捻りに入りました。ご指導いただきました、先生、奥様、ご子息様、お孫様のおかげで受講者53名全員が40分という短い時間の中で作成する事が出来ました。

先生のこだわられている土は絹のような滑らか、この様な良い土を使わせていただいてよいのかしらとの声も多く出ていました。土の温もりを感じながら一気に皆さん作り上げ、出来たお皿に絵を描いたり、書を書いたり図案を描いたり、バラエティーにとんだ作品が完成いたしました。





作品は、先生の所の窯で焼きあげていただき、10月頃に窯だしの予定、出来上がりが楽しみだわとの声があちこちから聞こえてきました。きっと全ての作品が素晴らしいはず、楽しみに完成を待ちましょう。

参加者からは「先生は謙虚なお人柄でお話し上手、お話が皆の心に響いた」「土の温もりを実感し、数日後も感触が残っていた」「藤原先生はじめ三代の方々から丁寧な指導をいただき、感謝です」との声をいただいた。

B 「浪曲の魅力」

講師： 春野 恵子 氏 (芸能文化 浪曲師)

プログラムリーダー 中井恵俐子 (ポート神戸)

最初に「浪曲の魅力」についてのお話が始まり、浪曲が日本芸能文化として始まった時期や歴史そして魅力等お話しされ、春野恵子氏が浪曲を一生の仕事として決意された時の事、また、英語での浪曲の節等も披露していただき盛り上がりしました。

「浪曲入門」では『何が何して何とやら〜』を皆で合唱(?)し、浪曲の聴き方や浪曲の掛け声などをレクチャーされた後、リージョン大会にふさわしく、おめでたい浪曲 親子の情愛を描いた物語「両国夫婦花火」を披露していただきました。お話の時とは打って変わって迫力ある語りと三味線 曲師一風亭初月氏に合わせて語る浪曲にどっぷりつかって情景が目には浮かび、拍手喝采でした。浪曲のすばらしさに感動し「良かった」と喜んでいただけました。



最後に「皆様とともに体験をすることで、身近に浪曲を感じていただくことができた事をITCに感謝いたします」と述べられました。日本芸能・話芸のすばらしさを日本中の若者に、そして世界中に広めていく春野恵子氏の益々のご活躍をお祈りいたします。



C 「まんだら塗り絵で深層心理を理解する」

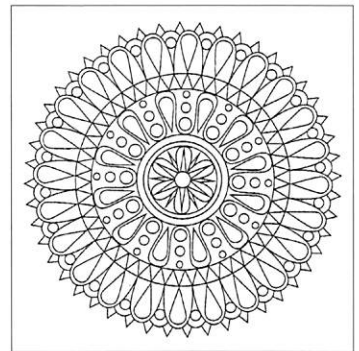
講師： 入江 恭子 氏 (ビジュアルコンサルタント)

プログラムリーダー 林 美代子 (城北・平安)

入江講師が「色は言葉で、洋服の色も言語のように相手にメッセージを伝える」と話され、お互いの洋服を確認しあい楽しい雰囲気の中が始まった。

そして「まんだら絵(右の絵)を塗っていただき、ご自身の深層心理に踏み込んでいただけたら」と説明がはじまると、期待に胸膨らませ楽しみにされている様子であった。

パワーポイントを使い色の説明を詳しくしていただき、紀元前500年頃ギリシャ時代アリストテレス色彩論は後世のヨーロッパ色彩文化に長く影響を及ぼし、ニュートン科学的色彩学とゲーテの哲学的色彩学・・・等の歴史がとても奥深く、又お母さんの体内の色がピンク色なので、人はピンク色を見ると落ち着くと興味深い話が続いた。



後半、塗り絵タイムにはいり「隣の人と話さないで、頭で考えるのではなく、今この色を塗りたいから塗る、バランスがいいから塗るといった感じで、ご自身が思うがままに塗ってください」と解りやすい説明のあと、心地よいBGMを聞きながら30分間塗り絵に集中した。塗り終えて、色の位置関係などの解説をしていただき、それらについての詳しく書かれた配布資料がとても参考になるものであった。

参加者からは「塗っていて楽しかった。好きな色とは違う色を使っていたのが自分自身驚いた。リージョン年次大会であることを忘れて集中した。」等の感想をいただいた。色の楽しみ方、色の深層心理をお伝えでき皆様に楽しんでいただけた時間でした。

D 「あなたらしい朗読」

講師： 結城 思聞 氏（善教寺住職）

プログラムリーダー 岩元 智子（しらすぎ）



初めに結城思聞講師が自身の朗読歴を述べ、教育セッションはスタートした。

「朗読は基本が大事である」と、発音や滑舌練習に重きをおかれ、全員に声を出させるという講師の強い思いで＜発音練習表・滑舌練習表＞の資料を全員に3行ずつ読んでもらい、講師が一人ずつ指導を行った。そして、正岡子規についての語りの後、講師が「命」に関連する一編の朗読



をされ、最後に、朗読の指導は、あくまでも一人ひとりの個性を引き出す指導をすべきであると述べ「あなたらしい朗読」として締めくくられた。

E 名前から知る「新しい自分」 ～みんながアーティスト！～

講師： たみの ともみ 氏（なまえアーティスト）

プログラムリーダー 鶴山 紀子（甲南）



初めて体験する「なまえアート」、絵心、詩心のない私にうまく出来るかしら、と皆さん不安を感じていらっしゃるようでした。しかし、いざ筆をとってみると、みんながアーティスト。講師が前もって名前を書いてくださった色紙に色をつけ、名前へのイメージをふくらませて詩を創っていくうちに、世界に一枚しかない「なまえアート」が完成しました。

「絵は下手だけど素敵に仕上がった」「自分の名前がアートになった喜び、ますます自分の名前が好きになった」「孫の誕生日に自分で作って贈りたい」「姉妹四人で過ごした幼い日がよみがえった」「父が名付けてくれたことを誇りに思い、いつまでも明るく元気でという由来を大事にしていきたい」とお話される皆さんの晴々とした笑顔、感慨深げなお顔を拝見して、お手伝いできて本当によかったと思いました。当日参加者71名、自分の名前に向き合って創作する楽しさを共有できたワークショップでした。

たくさん① 幸せ今ここに
あ② がとうの想い胸に ③ れからの未来
えがおで照らしてゆく（たみのともみ作）



F 「ルネサンスの生んだ三大巨匠の絵画から」

講師： 平田 雅男 氏（西洋美術史家）

プログラムリーダー 平田 真弓（阿波・眉山）

大塚国際美術館の立ち上げに一から携わり、美術館人気ランキング度日本第1位に導いた裏話から、数ある西洋美術の中でとりわけ華やかな時代を彩ったルネサンスの三大巨匠に焦点をあて、パワーポイントを使って分かり易く解説をしていただきました。

西洋美術作品を読み解く為に知っておいたら便利な約束事の形式があります。人物を特定する為の服の色であったり、アトリビュート（持物）だったり。事前にそれらを勉強し絵画鑑賞となりました。

14世紀～16世紀、イタリアを中心に興った芸術運動ルネサンス。時代の大きなうねりの中で古典文化を「再生」させ、平面的な表現から立体的で写実的な表現へと移り変わります。レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの三大巨匠が活躍した盛期ルネサンス。彼らの遺した作品の中から先人の生き様や人生哲学など盛りだくさんの逸話を、時には日本の信長、秀吉、家康の戦国三武将になぞらえて解説していただき、より身近に感じながら学びました。たくさんの名画と出会い、心豊かなひとときでした。



スピーチコンテスト

スピーチコンテスト委員長 西阪 宣枝

2日間にわたり、英語7名・日本語8名のコンテストをむかえて、夫々のスピーチコンテストが行われ、会員は今期も又多くの感動と学びを得ることができました。さまざまな話題のスピーチはクラブ、カウンスルを経て文章の構成、更なる練習も重ね、技術面共に磨き抜かれて会場いっぱいの聴衆を魅了し、惜しみない賞賛の拍手を得ました。英語の部門優勝者三宅慶子会員はITCスピーチコンテストに、羽田節子会員はコスモポリタンコンテストに出場を決意されました。また、この日のために精進を重ねたすべてのコンテストは勿論、役割担当者、スピーチコンテスト委員一同も企画、実行を通してこの上も無く有意義なトレーニングが経験できました。実り多きスピーチコンテストでした。

日本語の部

プログラムリーダー 山口 久美子（葦崎）



	氏名(クラブ)	カテゴリー	論題	題目
1位	小谷 貞子 (京都)	楽しませる	分岐点	京女?の繰り言(くりごと)
2位	前川 晃子 (東葛)	楽しませる	奏でる	終楽章は華やかに
3位	加納千恵美 (とっとり砂丘)	楽しませる	笑顔	お母さんは 魔法使い?!

優勝者スピーチ(要約)

論 題 : 分岐点

題 目 : 京女?^{きょうおんな}の繰り言



小谷 貞子 (京都)

スピーチコンテストの論題に「分岐点」というのがあったのを機に、私は今までの人生を振りかえって見た。東京に育ち、少女時代は勉強もさせてもらえず、空襲におびえながら少年航空兵の制服を縫う軍国乙女だった。

敗戦後は貧しいながらも学生らしいひと時を楽しめるようになった。生来スポーツ好きだった私は山登りの楽しさを覚え、友人たちと山登りに励んだ。そしてその中の一人と結婚の話がもちあがった。だが両親は、呑気物の私が京都の商家の一人息子の嫁になることを不安がり、なかなか賛成してくれなかった。『幸せになれるとは思えない』というのだ。結局は舅、姑になる人の人柄にひかれて賛成してくれた。私たちは結婚し、それから65年が経つ。

京都にはたしかに千年の都であった歴史と風物が今も息づいている。特に京女と言われる人たちは、質実な生活を身につけ、言葉や行動を体の中で考えてから発信する賢い人たちだ。私もそろそろ京女と言われてもよい貫禄を身につけたいのだが、夫にはまだまだ無理といわれた。

あの分岐点を京都へと歩き出した幸運と、私を導いてくれた沢山の人たちに感謝している。

英語の部

プログラムリーダー 稲嶺 久実子 (神戸)



	氏名 (クラブ)	カテゴリー	論題	題目
1位	三宅 慶子 (ひろしま)	Inform	Wish	Drink a toast with Nihonshu!
2位	羽田 節子 (北摂)	Inspire	Map	Cultural Exchange
3位	藤木 桂子 (イースト神戸)	Inspire	Partner	The Work of Time

優勝者スピーチ (要約)

Subject : Wish (願い)

Title : Drink a toast with Nihonshu !
(日本酒で乾杯!)



三宅 慶子 (ひろしま)

Nihonshu is regarded as the national alcoholic beverage, however, the annual consumption of sake in Japan had decreased by about 60% over the previous 40 years. Along with this decrease in consumption, the number of sake breweries halved in the same period. At present, sake accounts for less than 7% of all the alcoholic beverages consumed in Japan,

I would like to suggest that there are a variety of good reasons for making sake your drink of choice.

Firstly, choosing sake indirectly protects the historical landscape of Japan.

Secondly, as the old saying goes, "Sake is the chief of all medicine". Continual research discovers sake to include about 120 kinds of nutritional components such as amino acids and vitamins. They have positive effects on health and beauty.

And lastly, in 2013, washoku was named on the UNESCO Intangible Cultural Heritage List. Washoku is highly regarded for four characteristics. These four characteristics can also be applied to sake.

Sake has a history of more than 2000 years, so there is always more to learn about it. Unfortunately, many Japanese these days have little understanding of sake and are increasingly moving away from it. However, I believe if more Japanese had the opportunity to learn about sake, they would come to love it.

I wish that more Japanese would raise a glass and drink a toast with Nihonshu!

国酒とされる日本酒ですが、日本では日本酒離れが過去40年の間に急激に進み、消費量は60%減り、酒蔵は半減しました。日本酒は、日本で飲まれるお酒のシェアでは7%を切っています。

そこで、日本酒を選ぶ利点について挙げてみたいと思います。

第一に、日本酒を選ぶ事は間接的に日本の原風景を守る事に繋がります。

第二に、日本酒は百薬の長と言われるように、健康と美容の効果があります。

最後に、2013年に和食がその特徴を評価されて、ユネスコの無形文化財に登録されましたが、和食のこれらの特徴は、日本酒にもそのまま当てはまります。

日本酒離れが進んでいる昨今ですが、日本酒について学ぶ機会がもっと増えれば、日本酒好きな方が増えていくものと信じています。

より多くの日本人が日本酒で乾杯する日が来ることを願っています。

「行動して 解決を」
“Action & Solution”

次期役員

会 長	高 木 清 子 (No.6 京 都)
次 期 会 長	中 野 知 子 (No.6 奈 良)
第 一 副 会 長	加 藤 玲 子 (No.1 名 古 屋)
第 二 副 会 長	石 崎 郁 子 (No.2 イースト神戸)
書 記	川 崎 瑤 子 (No.1 錦)
会 計	高 橋 信 子 (No.5 阿波・眉山)

次期指名委員会

委 員 長	高 木 彬 子 (No.4 ひろしま・安芸)
委 員	新 城 久美子 (No.1 名 城)
委 員	若 林 裕 子 (No.2 甲 南)
委 員	榊 本 町 子 (No.5 豊 中)
委 員	井 上 暁 子 (No.6 京 都)

第34回 日本リージョン年次大会ご案内

大会テーマ 「懐・古・挑・新」
“Visit the Old, Challenge the New”

開 催 日 : 2016年7月4日(月)、5日(火)、6日(水)
場 所 : ホテルグランヴィア京都



大会アルバム

皆さんの声とともに

♡アンケートにお答えいただき
ありがとうございました。



会長行進

- ・入場時の各会長からの発声、応援など新しい試みが、新鮮でよかった。
- ・会長になったら楽しみの1つです。



笑顔いっぱいの受付



インフォメーション



大会1日目スタート

さあ観光へ！（ジェームス邸とハーブ演奏、ローストビーフの昼食）



- ・お天気に恵まれ、良い思い出ができた。
- ・格調高かった。



- ・十分に準備されていた。
- ・会員手作りの真心のこもったおもてなしだった。

前夜祭



- ・食事も美味しかった。



大会2日目



ブリーフィング



開会式 ITCの歌・進行



- ・生演奏に生の歌声でテンポよく、会場と一体となった。

会長行進



- ・カナダ国旗、米国旗、日本国旗の小旗を振ってのVal会長お迎えはウエルカムだった。



- ・華やかなカウンスル毎に趣向を凝らした応援で楽しめた。とても盛り上がった。

ITC 宣誓



歓迎挨拶



会員代表挨拶



インスピレーション



選挙



資料・物品販売



- ・様々なジャンルのお店があって楽しめた。
- ・空いている時間を有意義に過ごせました。

ショッピング



ホスピタリティ



呈茶席



- ・美味しいお茶、お菓子、おしゃべりで癒されました。
- ・メイドカフェ的なコスチュームが若々しかったです。
- ・笑顔でもてなしていただきました。

スピーチコンテスト（英語）



スピーチコンテスト（日本語）



- ・今年も ITC の華でした。
 - ・英語・日本語とも素晴らしかった。
 - ・これがあるからリージョン大会に来たいと思う。
 - ・プログラムリーダーが日英ともよかった。
- ・テーブルフラワーがきれいだった。

晩餐会



兵庫県知事祝辞



継続会員表彰



- ・会員皆の憧れです。
- ・後に続く会員になりたいと思います。

就任式



- ・Val 会長の配慮を感じた。
- ・自然体でよかった。



- ・ディナーも美味しかった。

34 期会長就任挨拶



- ・具体的で、内容豊か、説得力の有る、格調高い就任スピーチ。
- ・一緒にがんばろうと思いました。

34 期テーマ



エンターテインメント



プログラムリーダー



- ・心に響く歌、楽しめました。
- ・素晴らしく、感動しました。



大会3日目 Q&A



- ・Val 会長からの日本リージョン 3 分割の勧告に驚く。
- ・日本だけの ITC ではなく、世界の視点で捉えるべき。
- ・国際会計監査の仕方を明確にするべき。
- ・もっと話し合える時間があつたらよかった。

クロージングソート



コーディネーター
コ・コーディネーター



- ・配慮が感じられた。
- ・2人の活躍は素晴らしかった。

大会翌日 Val 会長らを姫路城へご案内



大会翌日、国際交流委員長、杉谷和代さんはじめ大会準備委員会「VIP接待」委員の皆さん、リージョン第一副会長海老原あかねさんが、Val Harper ITC会長、Maria Trujillo-Tough Div. I 副会長、小菅あけみDiv.IV副会長を世界文化遺産・国宝姫路城にご案内し、交流を深めました。

アンケートお礼

大会中、3日目を中心に会員皆さんに依頼したくアンケートは360枚配付し、118枚回収、回収率33%。大会参加会員は607名でしたので約20%近くの会員の皆さんから、ご意見を寄せていただいたことになりま。ご協力に感謝申し上げます。



編集委員で集計し、【大会アルバム】に一部コメントとして記載いたしました。他にも、この点が良かったという温かいご意見、こうすればもっと良くなるという建設的なご意見、真摯かつ的確なご指摘などなど・・・さすが総評を学んでいる ITC 会員と思えました。大会中の貴重なお時間にお書きいただいた ITC への思いを、また、皆さんご自身の言葉を大切にしたい気持ちでなるべくそのまま箇条書きにした集計用紙は、A4サイズ20ページにもなりました。

このアンケート集計用紙は、役員会に提出し、また必要な箇所は大会準備委員会及び各委員会に見ていただきます。さらなる進歩に役立つと思います。皆さんの貴重な“声”は、必ず届けます。ありがとうございました。

リージョン編集

リージョン事務局設立の経緯について <議会法規役員より>

1982年、日本リージョンが発足した当時は日本経済の高度成長期にあり、日本リージョンでは増設活動が活発に行われ、急激に増える会員の管理や翻訳・出版資料物品・特別会計などの煩雑な業務事業を行う事務局設置の必要性に迫られていました。第5期（1986-1987）日本事務局設立特別委員会が設置され、第7期（1988-1989）多くの会員の努力と協力で、名古屋の地に念願の暫定事務局が誕生しました。第8期（1989-1990）日本事務局の業務が本格的に開始され、事務局長に初代日本リージョン会長新木昌子さんが就任、事務局業務のシステム化を図り事務局の体制が整えられました。社会では既にIT化が急速に進んでおり、第17期（1998-1999）リージョン事務局にもコンピュータが設置されました。1999年7月、日本でITC世界大会が神戸ポートピアホテルで開催され、それを機に日本リージョンのホームページが開設されました。日本から英語で海外のITC会員に世界大会の情報が発信され、各国から大勢の会員が日本を訪れ、大会は盛大に開催されました。第20期（2001-2002）事務局は名古屋から大阪に移転、第29期（2010-2011）大阪から芦屋に移転し現在に至っています。

（参考資料：日本リージョン30周年沿革史）

❖ 第10期（1991-1992）常田道子日本リージョン会長に設立当時の状況を伺いました。

日本リージョンが目を見張るような急成長を遂げつつあるときに、課題となってきたのは、事務局の設立でした。毎年リージョンの長期目標に織り込まれ、研究委員会、設立準備委員会などがその検討を続けました。当時国際本部は、リージョンに事務局を置くことに同意せず、新木昌子さんは、その説得に精根を籠められました。また設立のための資金は皆無で、初めて外部に協力を求め縁故関係企業、組織などから多額のご寄付を受けることができました。その企業名はリージョン設立大会のプログラム裏表紙にのせてありますが、会員名は伏せてあります。それまでの資料の管理・販売、出版、翻訳、ITC特別会計などの会員のボランティアによる活動は、以後事務局に委任されることになりました。第8期（1989-1990）リージョン大会には、事務局関連の修正案が出されましたが議論百出で結論が出せず、第9期（1990-1991）の大会に持ち越され、38の修正案が提出されました。その経過に驚いた国際役員会からセルマ・マクレランド議会法規役員が大会前に来日、議事進行手順の指導をされました。大会で派遣員は昼食の間も審議時間とし、全ての休憩時間を審議に当て修正案は処理されたのです。

（参考資料：設立準備委員会記録）

❖ 第18期（1999-2000）～第20期（2001-2002）片桐寛子事務局長に業務の思い出を伺いました。

事務局が出来るまでは、教育資料・物品はすべて資料委員が自宅に保管し、受注・発送をしておりました。事務局設立準備特別委員長の新木昌子さんが綿密なアクションプランを基に計画を進められ、事務局がスタートした時の嬉しさは忘れられません。資料、翻訳・出版、経理それぞれの担当委員が活躍しましたが、中でもリージョンメールの発送は大仕事でした。リージョンの各役職から集まった原稿を80余クラブ分コピーして分厚い封筒で郵送するのです。事務局いっぱい機を「口」の字状に並べ、その上に積み上げた書類を1部ずつ事務局員全員が堂々巡りしてそろえる作業は2～3日かかりで大変でしたが、今となっては楽しい思い出です。すべての連絡が、全クラブにメールで瞬時に届く現在の姿は、夢のように感じられます。

カウンスル
No.1

「ウィルあいちフェスタ2015」に参加して

カウンスル No.1 第二副会長・PREM委員長 南谷 みどり



カウンスル No.1 初めての試みとして、ITC 会員以外の皆様を対象としたイベントを愛知県女性総合センターで行いました。11月15日に同所で開催された「ウィルあいちフェスタ2015」に参加する形で開いた「コミュニケーション力 up ワークショップ」には、13名の受講者がありました。カウンスル No.1 所属のショートコーストレーナー4人が「ボディランゲージ」、「声」、「態度」に関するプレゼンテーションをし、参加者全員に、1分間で自己紹介を考えた後、30秒で発表するという活動をしていただきました。ワークショップの後には温かい紅茶とお菓子を出して、トレーナー以外の会員とも気軽に話していただけるティータイムを設けました。

受講された皆さんは、人前で話すことに慣れていない方もいらっしゃいましたが、皆さん一生懸命に取り組まれました。イベント後に行ったアンケートでは「自己流の伝え方が変わるきっかけになった」、「今まで考えることなく過ごしてきたコミュニケーションについて学べてよかった」などという好意的なコメントをたくさんいただきました。その後、クラブ例会に参加して下さった方もあるようです。

PREM 活動の一環として行った今回のワークショップは、ITC の活動を外に向かってアピールする第一歩となりました。ITC 入会者獲得という直接の成果はまだ得られませんが、今後もこのような活動が継続されることを願っています。



案内チラシの裏には ITC の広報をプリントしました

カウンスル
No.2

第2回会合 ～スピーチコンテストを新しい試みで開催～

カウンスルNo.2 会長 深澤 佳代子

今期の目標のひとつにプログラム委員会とPREM委員会の融合を掲げています。ITCのスピーチコンテストを外にも知っていただき出席してもらえるように第二回会合の会場をいつもの神戸ポートピアホテルから、交通の便のよいJR三宮駅に近い神戸国際会館セミナーハウスに替えて開催しました。昼食も無しにして、その分会費をいつもより安く、会員1,500円・ゲスト500円で開催しました。また、新聞社、教育委員会、各協会、各団体等にもご案内をすることができ一般ゲストは7名参加していただき ITC の名前を少しは広めることができたかと思えます。



いい点もありますが 大変な点もありました。

- ・会場が交通に便利な場所で、外部に宣伝しやすい
- ・昼食を省くことで会費を低く抑える事ができ、また会合時間の短縮にもつながった
- ・会場予約が半年前なので場所確定までに大変であった
- ・備品の移動 机の移動など会場設定はすべて自分達でやらねばならない

参加者からは次のようなご感想をいただきました。

- ・会場費、会費を安くでき簡素な会合もよかった
- ・便利な場所にあったので行きやすかった
- ・入り口3か所で案内して下さったので迷わずに会場にいった
- ・食事が無いので開始時間が中途半端で困った
- ・会場が殺風景であった



今回は準備から全くの手作り会合でしたが無事終わることができました。新しい場所でのチャレンジに皆様のご協力を頂き心から感謝申し上げます。

カウンスル
No.3

第2回会合 ～スピーチコンテストに男性4名出場！～

カウンスル No.3 会長 佐藤 良子



カウンスル No.3 第2回会合は3月30日恒例のスピーチコンテストを主たるプログラムとして開催いたしました。会長としてこの第2回での会合の様様を是非、他カウンスル会員の皆様にお知らせしたいと思い、会報への「カウンスル情報」への寄稿にとりかかりました。と申しますのは所属10クラブより選出されたスピーカーの内、男性のスピーカーが4人も出場！これは日本リージョンでは勿論の事、カウンスル No.3 でもかつてみた事のない

事例ではないでしょうか？

近年カウンスル No.3 では男性会員の入会をポチポチ耳にするようになり、何となく頼もしく感じておりましたが、入会後の日の浅い男性会員も含めて4人も各クラブから選出され、クラブの栄誉を担ってコンテストに出場されるという素晴らしい盛り上がりのある第2回会合となりました。選ばれた論題、題目も女性会員とは一味違う目線での内容でした。しかし各男性の健闘も空しく、ベテラン女性会員を超えることが出来ずに、4人のうちのお一人、西宮クラブの浜口智洋会員が、論題「DNA」・題目「日本初の女性総理大臣」というユニーク且つユーモアにあふれた内容のスピーチで見事第3位を獲得されました。コンテスト終了後に講評していただいた外部からの審査員の方から「この会に男性会員が、しかもリタイア後でなく現役の男性会員がおられるということに驚愕した」との発言もありました。

このような現象を今後も続けていくために ITC の組織を知っていただけるように、社会に広く運動を続けていかなければならないと感じております。そのためには勇気をもって地道な継続的な行動を決断しそれを実行することが必要と痛感しております。

カウンスル
No.4

「クラブ会長会」を開催

カウンスル No.4 会長 村山 紀子

さる、6月22日、カウンスル No.4 の未来のために、「よい明日を目指して」のテーマで、新旧クラブ会長19名、カウンスル役員など計24名が出席し【クラブ会長会】を開催し、問題点と今後への想いを話し合った。

先ず問題点について：会員の減少。役の割り振りが困難で運営が難しい。会員の年齢差があり気苦労だ。クラブ会員数は多いが高齢化している。恒常的な欠席者がある。ゲストが入会に繋がらない。長期欠席者が退会した。テンションが上がりにくい。

次に今後への想い：良い引き継ぎをしたい。若い会員が多いので課題について考えたい。新入会員の成長を期待しクラブの発展に繋げたい。今期は会員歴の浅い会員に会長、第一副、書記を任せ、先輩会員がサポートに回った。互いの努力もあり、うまくかみ合ったと思う。昨年、多くの退会者を出したが残った会員でクラブの幹を作りたい。退会者なしで一年を乗り切った。簡素化を目指してカウンスル無所属クラブになったが簡素化しなかった。無所属になって ITC について深く考えたことを来期につなげたい。カウンスルのプログラムは良かった。会員が輝いている。CMT は省けるものは無いか考えて欲しい。コーディネートは負担が重い。年2回開催を望む。来期10周年を迎える。これを再スタートにしたい。会合で他クラブの会員との交流は楽しい。

まとめ：会員減少と高齢化が共通する問題点であった。先輩会員はサポートをして若い会員の活躍の場を広げることが大切だと考える。若い人が活躍できれば未来に対して期待と魅力を感じるだろう。会員の期待に応え魅力あるプログラムを用意しなければならないと肝に銘じた。



カウンスル
No.5

クラブ例会のプログラム作成

堺東クラブ 第一副会長 稲次 美子

ITC に於いて、毎例会のプログラムは、会員が興味を持ち、楽しく、参加して良かったと思うものを提供したいと考えています。

創設以来、伝統的に絶えず新しいものに挑戦している我がクラブは、25期の目標として、①ウェブサイトから「部屋の四隅」②昨年のカウンスルの「ビブリオバトル」③年次大会で好評であったトレーナー研修「Ten Tips からメモの上手なとり方」④教育プログラムから「エレベータートーク30秒メッセージ」⑤リレーション教育・資料委員会からの「チャップリン スピーチ」を取りあげました。

①では、PLの質問に「はい」、「いいえ」「時々」「わからない」と4コーナーに分かれ、お互い意見を主張し「あなたは臓器提供をしますか」の質問では皆の意外な考え方を聞き大いに盛り上がりました。③では、小松利香子パワートーク・トレーナーが会員による6分間スピーチを聴いて、直ぐに、壇上での態度、効果的な声、ジェスチャーの使い方等を詳しく評価され、直後に再チャレンジしたそのスピーチは、素晴らしいものに変化していました。メモの使用法では、メモ準備・作成方法更に発表に向けての練習とこれもまた即実行できるワークショップでした。④は英語で受けた教育を当クラブでは筆本美智子会員が日本語で、自分の考えを効果的に明確に伝えるには30秒で十分であり、その方法等を用意されたテキストをもとに全員参加で指導を受けました。短いように感じた30秒は、意外にも沢山の言葉を使える事を体感。どちらも20名のゲストを迎え、充実した時間を共有できました。

このようにプログラム作成にはまだまだ良き教育材料があるという事を実感した一年でした。



カウンスル
No.6

地域に種まきを～

カウンスルNo.6 会長 中尾 光子



世間ではいろいろな形のボランティアがありますが、ITC で学び培った能力を発揮し、社会貢献が出来ることはないかしら？ ITC の活動を活用していただくことはないかしら？ 地域に発信したい！と考へて活動を始めました。

10月にメンバーの友人から阪神間地域を拠点に活動されているNPO 想像文化組織研究所の「カフェ・タナトロジー」、からITCの学びをメンバー達に紹介してほしいとご依頼を受け、“アサーション”をカウンスルPREM委員会全員で60名余りを対象に行なってきました。又4月には奈良女子大生12名のクラブの集りの中で、地元の奈良クラブ有志とカウンスルPREM委員会有志との共同で“あなたの魅力を引き出す1分間スピーチ”

と題して、「回転ずし」のプログラムを活用し、自己紹介のよりよい方法など出前講座を致しました。

また、第1回会合では当日会員45名でしたが、地域のゲストと高校生たちをまじえて総勢146名の会合となり、ITCの活動を地域に発信することが出来ました。いずれの場合も我々は培った能力を発揮して達成感に喜びを感じました。

かなり会員が減少の中、地域に発信を継続し、即会員増強には繋がらないが「種まき」をしっかりしなければ芽はでないと実感しました。

一方、PREM委員会はカウンスル会合の昼食時の活用で、第1回会合ではTAKE5、第2回会合ではPREMの4つの役割を説明し、活動を促しました。

“地道にコツコツと～” 小さい行動を起こしています。

カウンセル
No.7

米子マンデークラブ、初めての「英語例会」開催

米子マンデークラブ 会長 原田 かおる



米子マンデークラブ初めての試み、「英語での例会」を5月に行いました。きっかけは、プログラム・教育委員長のピピッとした閃きでした。英語が堪能な委員が担当する教育を検討している時、英語で上手に行うことよりも、英語での進行や特別な単語がわかることに意味があるのでは、ということでこの試みはスタートしました。

鎮守康栄さん（No.5 梅田クラブ）の多大なご協力のおかげで、担当委員はいただいた資料をもとに、例会進行・各報告・スピーチなど全てを英訳・添削・指導し、その他数名の英語の堪能な会員は要所で力を発揮するという協力体制が自然と出来上がりました。会員もそれぞれが責任をもって真面目に挑み、積極的な勢いも感じました。

そして迎えた5月例会、クラブ間交流プログラムのためゲストも加え通常の2倍の人数の中、緊張(?)と期待(?)でワクワク・ドキドキ！ クラブ会員はいつもよりお水を飲む回数が多かったです。進行の私もお替りが欲しいくらい(笑)。・・・例会終了時の「アジャーン」を発声した時、心は「バンザーイ」でした。

ゲストの皆様からの感想は、①丁寧な資料のもと戸惑いも意味不明もなく充実した時間だった ②十分な準備が伝わった ③当てられた場合に備え英語の文章を作るのに頭が活気づいた、など好意的に感じてくださったのが嬉しかったです。

当クラブは、人数減少が悩みですが、人数が少ないなりの工夫と協力、そして会員各自に責任感があれば、クラブ例会は楽しくスムーズに行えることを改めて実感できた「英語での例会」でした。

カウンセル
No.8

第2回会合 ～懐かしい会場で、スピーチコンテスト～

東京クラブ 水野 玲子



カウンセル No.8 第25期第2回会合は好天の2015年4月25日（土）10時30分より開催、この日は恒例のスピーチコンテストでした。

会場となった「シーサイドホテル芝弥生」は、カウンセル創設以来ずっと利用してきたものの、ここ数年はご無沙汰していました。今回復帰となり、会員の多くが、故郷に戻ったような懐かしさを感じたことと思われます。第1回会合から半年振りの再会に他クラブ会員との間に話に花が咲き、笑みがこぼれていました。

午前中のビジネスでは、活発な審議の末、会費を4,500円に値上げするという常規修正案を可決。続いて、当カウンセルは期2回のみ会合なので、次期役員選挙と紹介がありました。

午後の部、コンテストには英語の部4名、日本語の部8名がエントリー。かつては少人数クラブの欠場もありましたが、今回は全クラブ参加。世間、社会、政治に対し、時に怒り、失望しながらも何かなくてはと行動する人、出会いの大切さを説く人、病を人生の転機にした人、高齢者に寄り添う人等、年齢が近いため共感することも多い中、終楽章の響きに改めて身を引き締めたりと、聴衆にとって実りあるひと時となりました。皆さんクラブで勝ち抜いて来ただけあって、そこは実力者揃い、原稿に殆ど目を落とすことなく、自身の世界を展開し、聴衆を取り込むそのスピーチ力には目を見張るものがありました。英語の方は、言語の壁もあってかフロアのリアクションは今一つでしたが、日本語の方は、一体となって沸く光景が再三見られました。



出席者数99名。閉会は16時10分。続くコーヒータイムを経て、再会を約束し三々五々会場を後にしました。

高校生スピーチコンテスト

「高校生スピーチコンテスト」を終えて

カウンスル No.3 会長 佐藤 良子



カウンスル No.3 主催「第4回高校生スピーチコンテスト」(後援：兵庫県私学連合会、ITC 日本リジョン)は、明るい春の日差しのもと、さる3月21日(土・祝)兵庫県私学会館にて開催いたしました。今回はカウンスル No.3 のPREM 活動の一環として第二副会長が中心となり、PREM 委員の強力な活動により実現致しました。過去には特別委員会としての活動もありましたが、この度はやはり ITC の存在を社会に広く知ってもらおうという PREM 活動を目的とし、先ず委員の会員が今までの繋がりを生かして各私立高校へのアプローチから始め、そしてその結果が実を結んだものと思っております。当初は英語の部、日本語の部共スピーカーを5人ずつと考えておりましたが、意外に英語の部の希望者が多く、中には一つの高校から2人という希望があり、慌てて役員会、委員会で、その取扱いを検討し、英語日本語とも一校につきスピーカーは1人ということをお願いした結果、英語7人、日本語5人のスピーカーの出場となりました。若人の新鮮で純粋なスピーチの内容は、心に響き終始感動いたしました。若さあふれる高校生の熱意のこもったスピーチに日英両語とも優劣がつけがたく審査員の先生方を悩ます結果となり、最終的には奇しくも神戸女学院高等学部から出場したスピーカーが日本語、英語の部で共に優勝という結果になりました。

お陰様で今まで参加いただいた兵庫県下の私学関係者及びその御父兄には少なくとも ITC という存在は知っていただけただけだと思っております。それは過去の先輩諸姉の会員の御努力のお蔭と感謝いたしております。やはり継続は必要であり、これを続けることに大きな意義を見出しております。



小・中学生スピーチコンテスト

第4回東広島市内 小・中学生スピーチコンテスト

ひがし広島クラブ スピーチコンテスト委員長 坂本 公子



さる1月25日(日)東広島市サンスクエア・アザレアホールにおいて、第4回東広島市内小・中学生スピーチコンテストを開催しました。ITC 日本リジョンの後援をいただき、ご来賓に東広島市長、東広島市教育長はじめ中島由美子日本リジョン会長、大原慶子日本リジョン第二副会長、村山紀子カウンスル No.4 会長をお迎えし盛大に開催することができました。

小学生の部7名、中学生の部7名が出場しました。スピーチの時間は小学生3分以上5分以内、中学生は4分以上6分以内、減点についても1秒につき1点、原稿は見ないという ITC 審査基準で行っています。出場者たちは学校、先生、家族の応援、声援をうけながら、しっかり練習を積んでの出場です。当日は全員、堂々たる態度で、元気一杯のスピーチを聞かせてくれました。今回、賞に入った初出場の小学校の校長先生がとても喜ばれ「発表の場を提供して下さった ITC に感謝します」とのこと。また、入賞できず涙ぐんでいた子が、評価用紙をもらって更にながらぶ気になってくれたこと、教育委員会から「これからも応援しますから、続けて下さい」とのお言葉、大変だったけれどやって良かったと実感しました。少人数クラブで開催は大変ですが、カウンスル No.4 各クラブからの温かい応援をいただき、たくさんの方々を支えられ開催できましたこと、心より感謝致します。本当にありがとうございました。

記念例会

阪神クラブ 50周年記念例会

50周年記念例会 コ・コーディネーター 三宮 晶子 AC

2015年4月3日、神戸ポートピアホテル偕楽の間にて、井戸兵庫県知事夫人、小菅あけみ Div.IV副会長、中島由美子日本リージョン会長、深沢佳代子カウンスル No.2 会長はじめ、235名のお客様をお迎えして ITC 阪神クラブ50周年の記念例会を無事に終了いたしました。ウエルカムボード、各テーブル、演台と

色とりどりの美しいバラの花の飾り付けが皆様をお迎えいたしました。シナリオに沿って総合司会者のもと、開会、式典と進み、式典ではチャーター会員の伊庭文子さん、廣瀬忠子さん、10年皆勤の高橋和子さん、97歳の最高齢で現役会員として活躍の小島百合子さんが表彰されました。

続いて「映像で綴る50年」が上映されました。多くの写真や資料の中から20分の映像に纏めるのは大変な作業でした。米国総領事邸でのクリスマス例会などセピア色の写真、手書きの教育資料、議事録など、興味あるものも多く、ごく一部のご紹介にとどまりましたが、実行委員会の委員のセンスで皆様に飽きずにご覧いただけたのでは？と自負しています。

楽しいランチの時間です。ニュージーランドから出席のアン・イソット元会員の乾杯で始まりました。シェフ心入れの美味で、目にも美しい6品のフレンチが私達の空腹を満たしました。ランチの後は、クラシックの時間です。「マウロ・イウラート&伊藤ルミ デュオ コンサート」の素晴らしいバイオリン演奏を楽しみました。

最後に、会員歴の新しい会員をステージの中央に、24名一人一人の紹介がありました。善塔貴美子会長の皆様への感謝のご挨拶で阪神クラブ50周年記念例会は幕を閉じました。

編曲された「アナと雪の女王」のピアノ演奏に載せた、心に響くクロージングソートで“記念の日”は終わりました。



米子クラブ 30周年記念例会

30周年実行委員長 秦野 順子

米子クラブ30周年の記念例会は、大勢のご来賓・ゲストをお迎えし、米子全日空ホテルにおいて2015年5月13日開催しました。会員数は13名。いつも通りの事務会議を行い、議事録朗読はご来賓にも日頃の ITC の活動を知っていただくよい

機会になったと思います。

式典では、会員一人ひとりが主役になり、全員に賞の授与がありました。今回のプログラム「映画『地球交響曲第八番』をよむ」は、米子クラブ10周年の折、坂口總子初代会長が龍村仁監督に記念講演を依頼したご縁で、実現しました。2月に待望の完成披露試写会が明治神宮で開催され、そこで監督からビデオメッセージをいただき、皆様にもご覧いただきました。映画は奥が深く、鑑賞後に、ゲスト会員に感想、見解、考察などを発表していただき、ともに考える時間が持てたことは映画を読み解く上で理解と感動がより深まり、たいへん有意義な時間となりました。また、来る9月には記念事業として、「地球交響曲第八番」を一般公開で自主上映します。



少ない会員ですが、心を込めて、手作りの例会にみんなで取り組み、皆様をお迎えできましたことは、大きな喜びと共に感慨もひとしおでした。ご多忙の中、お越し下さいました方々には心より御礼申し上げます。米子クラブは、これからも米子クラブらしく『夢を紡いで』まいります。



クラブへの投資と考えるメンタリング

ITCメンタリング委員長 杉谷 和代



2011年から2期務めたITCメンタリングを振り返ってみると、1期目はwebのメンタリング資料の見直し、2期目は実際にその資料を使って各ディビジョンでワークショップやTen Tipsを使った教育の時間を持つことが出来た。日本リージョンにおいてはメンタリングの必要性、重要性の認識が他のディビジョンに比べて低く感じたが、リージョン会報やリージョンメールでメンタリングのことを記事として取り上げて頂き、十分ではないが幾つかのクラブでワークショップや教育を行い、1カウンスルでもその機会を頂いた。委員会の努力が実り、多少とも日本リージョンにおいても、メンタリングがクラブの活性化に役立ち、ITCが直面する問題解決の一助になり得ると考えられるようになりつつあることは喜ばしい成果である。当初委員会の目標として、2015年の世界大会では全てのクラブでメンタリングプログラムが採用されているという発表が出来ることとしたがそれは実現することが出来なかった。ディビジョンII Blue Ridge Region. の最新のニュースレター“Smoke Signal”の記事の抜粋を紹介すると

「大抵のITCの会員はメンタリングを投資と考えている。何故？それは新しい会員がクラブに入会すると、クラブのメンバーは新入会員のためだけではなくクラブ全体のためにも結果として反省になったり、行動になったり、学習になったりする空間と環境が出来る。クラブは全ての会員が協力し合い、それぞれの目標を持つ同志としての友情で結ばれる安全な場所になる。クラブでは正直な会話が出来、反省、行動、学習が価値ある結果となってクラブに戻ってくるからである。私たちのクラブでは私たちはメンターとなり、時間、知識やエネルギーをプロテジェに投資する。彼や彼女の問題は私たちが面倒をみる。メンタリングをすることにより、あなたもあなたのクラブも100%の見返りがある。」



(写真は2014年3月に行われたカウンスル No.2 六甲クラブのワークショップ風景)

追悼 心よりご冥福をお祈り申し上げます

高柳恭子様を偲んで（第6期日本リージョン会長 No.1 元名古屋）

2015年1月28日ご逝去

盛田 純子（名古屋）



高柳恭子様は私の直ぐ後に名古屋クラブに入会なさった気がしたのに、調べてみると実際にはかなり後の1965年でした。私がそう感じるのは、高柳様が入会后早くから役員を務められる等、大変 ITC に向いていらした事によると思います。私が会長当時ビジネスの審議をする際、直ぐに発言して下さるので場がとても活気に満ちて議長として助かりました。会則もきちんと勉強され、とかく自己流であった私とは全然違いました。

後にカウンスルの分割やリージョンの立ち上げにご一緒する機会があった時、私はよく叱られていましたのも懐かしい思い出です。

第6期日本リージョン会長でいらした時はクラブが次々と増え、運営に苦勞されたと思いますが、大会は活発でとても充実していました。コミュニケーション能力が高く、全会員にお心配りしつつも素晴らしいパワーと熱意を持って活動されたことに改めて敬意を表します。

高柳様のようにまさに当時を代表するような控え目でありながらも知的レベルの高い魅力ある方が ITC に在籍されていたことが、自然に会員を増やす要因のひとつであったと思います。

社会では調停委員としても永くご活躍され、ご功績により藍綬褒章を受章されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

-
- | | |
|-------------------|----------------|
| 伊藤 博子 様 (No.7 倉吉) | 2014年8月24日ご逝去 |
| 美馬 晃子 様 (No.5 阿波) | 2014年11月28日ご逝去 |
| 平瀬 暢子 様 (No.1 錦) | 2015年3月29日ご逝去 |
| 高城 良子 様 (No.6 北摂) | 2015年5月26日ご逝去 |





ITC日本リージョン

International Training in Communication

ITC、のぞいてみませんか？何かが見つかります

広がる友情 深まる知識 あなたを変えるきっかけに

ITCはリーダーシップやコミュニケーションの教育・訓練をする非営利組織です

日本リージョンウェブサイト（ホームページ） 会員ログインの方法

<http://www.itcjr.jp/>

- ① <http://www.itcjr.jp/> クリック！
- ② 会員専用ページ ログイン

ユーザー ID 会員番号

（わからない時は、事務局、又はクラブ会計にお聞きください）

パスワード 会員の姓のローマ字小文字（例 nihon）

この時パスワード記憶の欄をチェックしておく
と次回からすぐログインできます。

編集後記

旺盛な好奇心と人の温もりに満ちた編集会議では、毎回豊かな時間が流れ、自分が自分らしく振る舞う事が出来ました。ご協力くださった会員の皆様、編集スタッフの皆様、煌めきの一年間をありがとうございました。

樋口 慶子

いよいよ、最終号3号の発行です。校正原稿を読みながら、神戸でのリージョン大会を追体験し、リージョン会員の学びを熱く伝える内容にいち早く触れることができました。そしてこの一年、貴重な機会を本当にありがとうございました。

伊東恵美子

編集委員のお役を通して、「心が尽くされている」と感じた場面に何度も出合いました。緊張感に縛られて、余裕が無くなりそうな時、誰かが肩に手を置いてくれるような、素敵なチームに席をいただき、心満たされて1年が過ぎました。感謝！

渡邊 春代

今期編集は、役員会、委員会の活動・方針を正確に伝え、カウンスル・クラブの情報を提供する為に、読みやすく見やすい紙面づくりにスタッフと共に努めてまいりましたが、いかがでしたでしょうか？1号、2号発行後、皆さんからご感想、ご意見をいただき、また数多くのメールでのやり取りで、会報を通じて会員の皆さんと心が繋がり、私の宝物となりました。リージョン大会でも「3号楽しみにしていますよ」とお声をかけていただき、編集者冥利に尽きると思いました。ご寄稿いただきました皆さんはじめ会員皆さんに心からのお礼を申し上げます。たくさんの<ITC愛>をありがとうございました。

伊藤 容子

会長テーマ字：揮毫 吉村 茂 氏

ITC日本リージョン会報 Vol.33/No.3
編集・発行：第33期 ITC日本リージョン
印刷：上野タイプ印刷(株)

ITC Pledge

ITC 宣誓

We, as members of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

我々インターナショナルトレーニング イン コミュニケーションのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

2014-2015

ITC日本リージョン声明文

Mission Statement of Japan Region

ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術と組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた成熟した社会人を養成し社会に貢献することにある。

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.



<http://powertalkinternational.com/>